

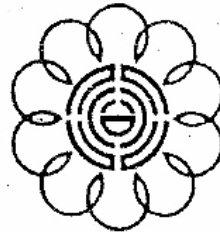
平成11年度

## 第31回 越谷市民文化祭

平成11年11月20日(土)～23日(火)

### 越谷市郷土研究会展示部門出品紹介

於 越谷コミュニティセンター 大ホールホワイエ



- ◇周りの10個の輪は、昭和29年11月3日に合併した十町村である  
二町八ヶ村（「越谷町」の誕生）をあらわす。  
十町村とは、越ヶ谷町・大沢町・桜井村・新方村・増林村・大袋村・  
萩島村・出羽村・蒲生村・大相模村をさす。  
なお、市に昇格したのが昭和33年11月3日。
- ◇中央部周りのデザインは、カタカナの「コ」を4個集めたもの。  
つまり、越谷の『越』（「コ4」）を意味する。
- ◇中心部のデザインは越谷の『谷』の文字を図案化したものである。

## 第31回 市民文化祭の

### 越谷市郷土研究会展示作品リスト

番号	題名	頁	出品者名	住所
一	旧増林村の石仏	1 15	加藤 幸一	春日部市大枝
二	日光道中分間延絵図	16 17	菅波 昌夫	南越谷一丁目
三	増林河岸の跡	18 19	鈴木 進志	大吉
四	越巻村出身(現新川町)の力士 「荒井山大蔵」	20 21	高橋 清	新川町一丁目
五	「濱徳君行状」に見る蒲生の幕末	22 23	高橋 正澄	蒲生西一丁目
六	「迅速測図原図」と その原図に見る弥十郎村	24 25	原田 民自	弥十郎
七	大沢小学校の「青い目の人形」	26 31	水上 清	宮本町五丁目
八	越谷の古いお風呂屋さん	32 33	宮川 進	千間台西二丁目

※右の展示作品や入会に関する問い合わせ先は、

越谷市郷土研究会の谷岡隆夫(当会会長・☎6217527)までお願いします。

# 一 旧増林村の石仏

加藤 幸一

越谷の信仰や生活などを解明する貴重な石仏・石塔が開発の波にのって葬られつつある。そこで今のうちに詳細かつ正確に記録したいと今年には旧増林村の江戸期の石仏・石塔について調査した。調査の詳細については林泉寺や勝林寺に資料を置かせていただくのでご請求(無料)願いたい。

## 旧増林村

### (1) 増林前波の水神宮

図1の左側面に刻まれた道標には、「東、子安観音道」となっている。林泉寺には、現在でも観音堂(大慈殿)に子安観音を安置している。かつては「子安観音」の寺院として大変有名であったことがわかる。

### (2) 定使野橋

図5の馬頭観音文字塔は、巨大な記念碑「新方領堀改修記念碑」のそばにある。このあたりはかつて死馬の捨て場所であった。

### (3) 定使野橋そば水神宮

図6の百八十八箇所巡礼塔は、越後(現在の新潟県)の市川惣右衛門という人が秩父三十四箇所、坂東三十三箇所、西国三十三箇所、四国八十八箇所巡礼地のすべてを徒歩で巡り終わった記念と天下泰平・国家安全を祈願して建立した石塔である。

### (4) 定使野井共同墓地

図8は、不動道(大相模の不動尊に参詣する道)、越ヶ谷道、猿島道、野田・宝珠花道を指し示す道しるべを兼ねた三稜万霊塔である。

### (5) 平野家(増林二七〇一)そば十字路

図12・図13はともに庚申塔である。図12は文字で「庚申塔」と刻まれ、図13は腕が六本もある青面金剛を描いている。地元では現在も庚申講が続けられている。

### (6) 清涼院墓地

図15は、上から、宝珠と剣を持っている虚空蔵菩薩、智拳印を結んでいる大日如来、阿如来、阿弥陀説法印を結

### (8) 平野家(増林三五〇〇)個人墓地

図20は、僧侶円心が法華経(大乘妙典)をわが国の六十六か国すべてに納めようと徒歩で回り終わった記念に造立した六十六部回國塔である。

### (9) 藤掛家(増林三五五五)水路傍

図22から図24は、すべて庚申塔。地元笹原組住民によって庚申講が今も行われている。

### (10) 鈴野木家(増林三七六三)水路傍

図25は庚申塔である。地元では庚申講が平成八年頃まで行われていた。

### (11) 古利根川八幡河岸跡地

図26は板碑の形をした初期の墓塔である。ここはかつては八幡河岸があった所である。

### (12) △1廿井家(増林三七一一)水路傍

図27は庚申塔で、今も地元では庚申講が行われている。

### (13) 護郷神社(旧「浅間神社」)

この神社はかつては浅間神社と呼ばれていた。ここには

ぶ阿弥陀如来、薬壺を持つ施無畏・与願印の薬師如来、蓮の花を持つ観音菩薩、合掌する勢至菩薩、両手の手のひらに宝塔を載せた弥勒菩薩、宝珠と錫杖を持つ地藏菩薩、蓮の花を持つ普賢菩薩、羅索と剣を持つ不動明王、施無畏・与願印の釈迦如来、經典を上に乗せた蓮の花を持つ文殊菩薩、以上の合計十三の仏の像容が見られる。

図16は、十九夜の月の出を待つ行事を行った記念の石塔である。十九夜月は月の出を覆って待つ頃の月なので、「覆待月」とも呼ばれる。この石塔の上部には、十九夜月の主尊の如意輪観音菩薩が描かれている。

### (7) 平野家(増林三五〇〇)邸内

図19の石塔は、もとは古利根環公園そばの野田道(猿島道)の西側路傍にあった。

平野家はかつては代々「源左衛門」を名乗り、地元では「源左衛門様」がなまって「ゲンゼム様」と呼ばれ、寿橋の凡そ五十メートル下流の古利根川右岸にあった増林河岸(源左衛門河岸、ゲンゼム河岸)を差配していた。

板碑型をした初期の庚申塔(図29)がみられる。

(14) 福寿院跡墓地

図32は、俗に観音経と呼ばれる普門品を誦誦した記念に造立された。上部の梵字「サ」は観音菩薩を意味する。

(15) 須賀家(増林三七八二)前

図35の中央に刻まれた梵字は「アーンク」「キヤ・カ・ラ・バ・ア」と読む。アーンクは大日如来を指す。その下の五つの梵字は仏教で説く「五大」を表し、万物を作り出す元素と考えらる「空・風・火・水・地」を指す。

(16) 林泉寺

図36の名号塔の正面に刻まれた名号「南無阿弥陀仏」は、文字の先端が剣のように尖っている「利剣名号」である。この名号塔が造立された天明年間(1811-1828)は、浅間山の噴火などの天変地異があいついで起こった「天明の大飢饉」の頃である。天変地異や疫病・災害によって道端に倒れて亡くなった人々など、非業の死を遂げた多くの人々の供養も兼ねて、このような天変地異や疫病・災害を利剣名号の威力で防ぐ

うとしたものである。

図42は、六阿弥陀参りのために寺院に建てた標識の石塔である。

図43の石塔の裏側には「御殿境内」の文字が刻まれている。越谷市御殿町には、家康が鷹狩で休む御殿があったところである。現在の御殿町に御殿ができる前は、この林泉寺の地に家康の御殿があったのではないかと考えられている。裏面の「御殿」の文字はそれに関連づけて刻まれたものであろう。

図44は、念仏僧の徳本行者の徳を慕って広範囲の地域の人々によって造立された名号塔で、徳本行者本人の独特の書体による名号「南無阿弥陀仏」と花押(サイン)が刻まれている。

図45は、増林の関根氏の始祖となった人の五輪塔である。戒名が刻まれている。なお、その向かって左隣には妻の五輪塔もある。関根氏の始祖について記載された古文書「分記関根氏一族過去譜序」が保管されている。

(17) 今井家(増林三八九四) 政路傍

図47は増林中組の住民が造立した庚申塔である。地元の人たちによって庚申講(地元では「かのお講」とも呼ぶ)が行われていたが、平成十一年の初め頃に廃止された。

(18) 須賀家(増林二四三二) 邸内

図48は増林中組の住民によって造立されたものである。三猿が正面と両側面に分かれて刻まれているのが珍しい。

(19) 須賀家(増林三八六四) 管理の稲栢世何社

図49は須賀家管理の稲荷社の祠の近くにある石塔である。成田山新勝寺(成田不動)や地元の大聖山(大相模不動)への不動信仰が幕末に盛んであったことがわかる。

(20) 林泉寺裏の十一千

図50の地藏石仏が建っているあたりは、かつては溺死者・疫病死者の火葬場跡といわれている。台石には地元の女性の念仏講と思われる「女講中」と刻まれている。

(21) 勝林寺の北西の「とうかん山」

図51の石塔のあたりには、かつて地元では「とうかん山」と呼ばれた杉の木々が生えていた小山があり、その上にこ

の石塔が立っていた。勝林寺の檀家である青山祖養が造立したものである。落ち武者がここで自害した墳墓との伝説が残っている。

(22) 勝林寺

図52は、勝林寺が、越谷市・松伏町・吉川市にまたがる広範囲な地域からの信仰を受けていたことがわかる。この石塔を造立した住職は第十九世の教山で、今回の調査で彼の直筆の古文書(正法眼蔵の写し)が当寺に保管されていることがわかった。

図58は、勝林寺の第二十一世住職の太道寛山大和尚が、幕末に造立した庚申塔である。表面の文字は、かつて勝林寺の第十一世を勤め、後に永平寺第四十六世となり、朝廷より高德の禅僧に与えられる「真空妙有」の禅師号を賜った弥山良須大和尚によると伝えられてきた。しかしこの文字は、今回の調査では、曹洞宗の開祖道元禅師の六百回忌を執り行った臥雲童龍大和尚の書体とわかった。彼は永平寺第六十世を継ぎ、朝廷より「大晃明覚」の禅師号を賜った高僧である。

図59は、西国三十三箇所、秩父三十四箇所、坂東三十三箇所の巡礼や富士山・湯殿山・立山の登山完了の記念に造られた石塔である。

図63は、渡し場道（古利根川の「ばば渡し場」に通じる道）と不動道の道しるべが刻まれた貴重な庚申塔である。

渡し場は林泉寺と勝林寺の中間の古利根川土手にあり、対岸の上赤岩に渡る大正年間の頃の往復の渡し賃は、大人が三銭、子供が一銭であったという。

(23) 岡安家 (増林二七〇七) 路傍

図65は岡安家の死馬を供養した石塔である。

(24) 岡安家 (増林二一三六九) そば路傍

図66は、越ヶ谷道と不動道の道しるべを兼ねた馬頭観音の石塔である。

(25) 宮川家 (増林三一七四) 路傍

図67は、死馬を供養した石塔である。

(26) 増林下組地藏堂

図68は、67と同様の馬頭観音文字塔である。

(27) 増林下組香取神社  
 図69は、幕末に香取神社に敷石を奉納した時に造立された石塔である。

(28) 下組集会所

ここはかつては「宝蔵院」と呼ばれる寺院があったところである。ここには図70、71、72の三基の庚申塔がある。

(29) 夕倉家 (増林三一二六九) 邸内

図73は増林村下組の住民によって造立された石塔である。

(30) 千代田橋そば土手下

図75の石塔には、ばば渡し道、不動道、松伏道を示す道しるべが刻まれている。

(31) 城ノ上稲荷神社

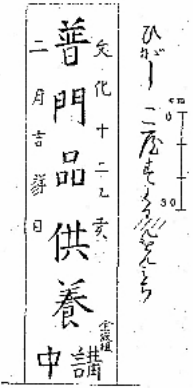
図77の石塔には、越ヶ谷、不動道の道しるべが刻まれている。

(32) 百木家 (増林五六四三) 敷地内

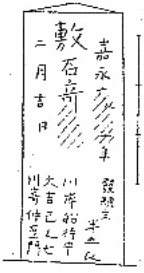
図78は、吉川や、古利根川に架かる「ばば渡し」と野田へ行くための道しるべを兼ねた貴重な庚申塔である。

## 増林

1. 道標付き普門品供養塔



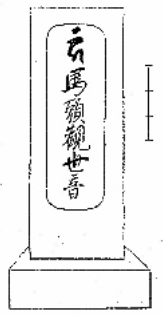
2. 敷石供養塔



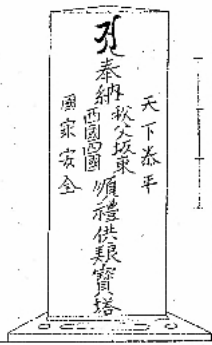
4. 普門品供養塔



5. 馬頭観音文字塔



6. 百八十八箇所巡礼塔



7. 地藏菩薩像付き念仏供養塔



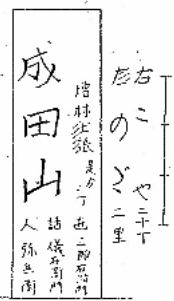
8. 道標付き三界万霊塔



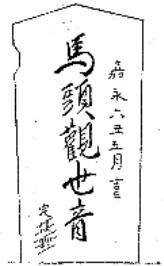
9. 青面金剛像庚申塔



3. 道標付き成田山文字塔



10 馬頭觀音文字塔



13 青面金剛像庚申塔



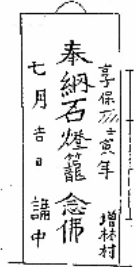
16 如意輪觀音像付き十九夜念仏塔



11 観音菩薩像付き普門品供養塔



14 石燈籠供養塔



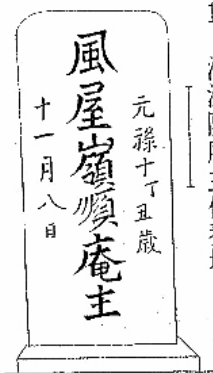
12 道標付き文字庚申塔



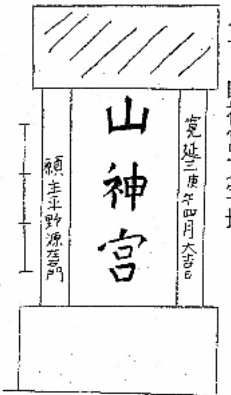
15 十三仏像谷塔



18 清涼院庵主供養塔



19 山神宮文字塔



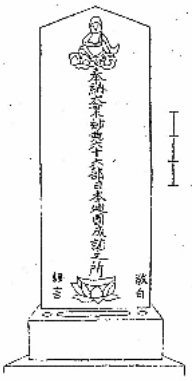
22 文字庚申塔



25 文字庚申塔



20 六十六部回国塔



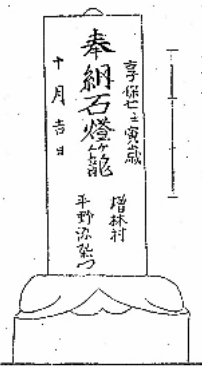
24 青面金剛像庚申塔



26 板碑型墓塔



21 石燈籠供養塔



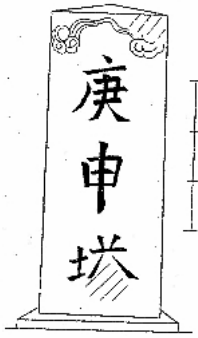
23 文字庚申塔



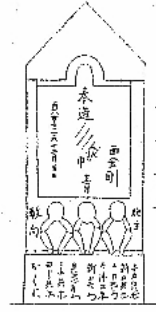
27 文字庚申塔



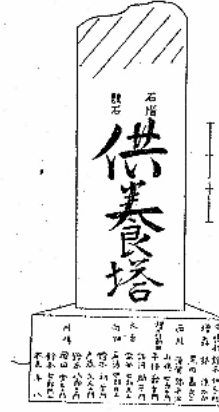
28標 文字庚申塔



29標 文字庚申塔



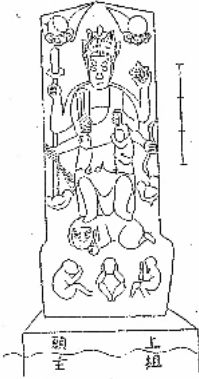
30標 石階・敷石供養塔



37標 青面金剛像庚申塔



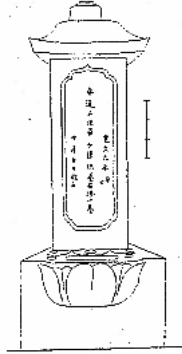
38標 青面金剛像庚申塔



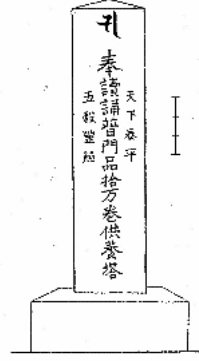
39標 百八十八箇所巡礼塔



31標 法華經供養塔



32標 普門品供養塔



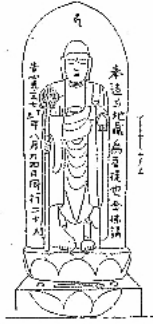
33標 弘法大師像



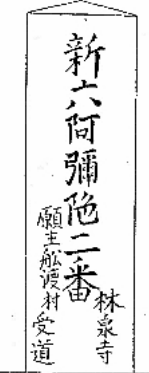
40標 板碑型墓塔



41標 地藏菩薩像付き念仏供養塔



42標 『新六阿弥陀』番」標識石塔



34標 不動明王像



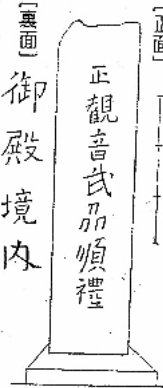
35標 五大梵字付墓塔



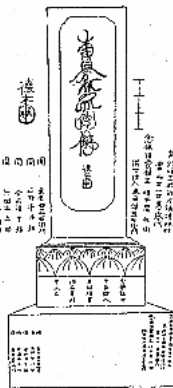
36標 利剣名号塔



43標 『御殿』文字付き巡礼標識石塔



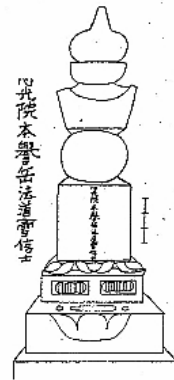
44標 徳本行者の名号塔



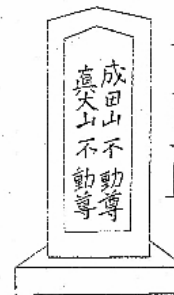
45標 阿弥陀如来像付き開山塔



46標 増林関根氏始祖の五輪供養塔



49標 成田山・真大山不動尊文字塔



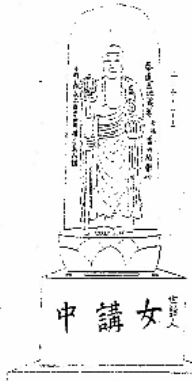
52標 普門品供養塔



47標 文字庚申塔



50標 地蔵菩薩像



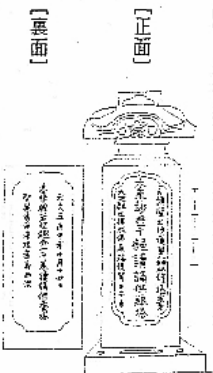
53標 六十六部回国塔



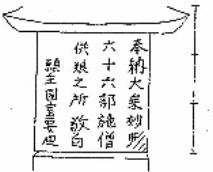
48標 文字庚申塔



51標 法華經及び般若理趣經供養塔



54標 六十六部回国塔



55標 十三仏供養塔



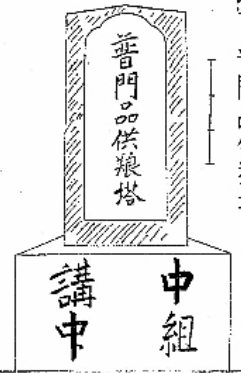
58標 明覚禪師の文字庚申塔



61標 文字庚申塔



56標 普門品供養塔



59標 地蔵菩薩像付き百箇所等巡礼塔



62標 文字庚申塔



57標 六十六部回国塔



60標 文字庚申塔

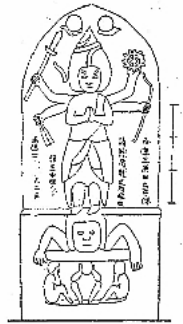


63標 道標付き文字庚申塔

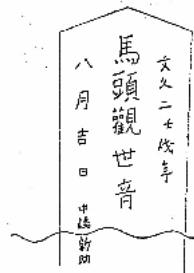




64標 青面金剛像庚申塔



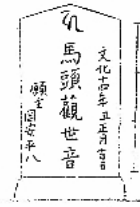
67標 馬頭觀音文字塔



70標 文字庚申塔



65標 馬頭觀音文字塔



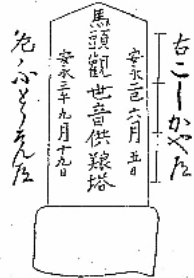
68標 馬頭觀音文字塔



71標 青面金剛像庚申塔



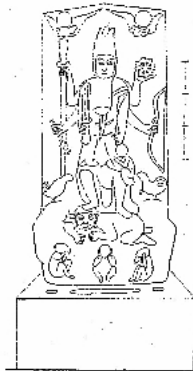
66標 道標付き馬頭觀音文字塔



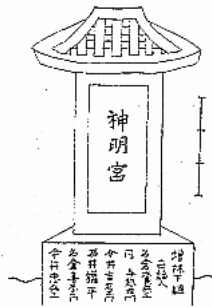
69標 敷石供養塔



72標 青面金剛像庚申塔



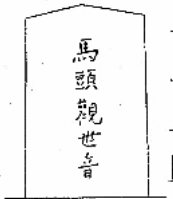
73標 神明宮文字塔



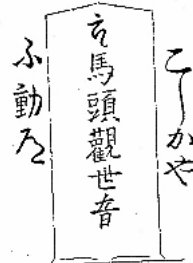
76標 文字庚申塔



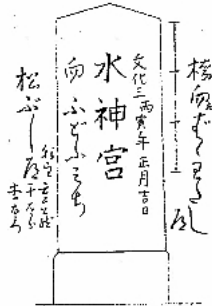
74標 馬頭觀音文字塔



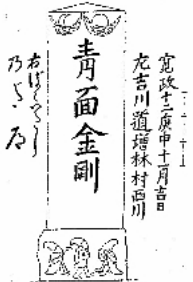
77標 道標付き馬頭觀音文字塔



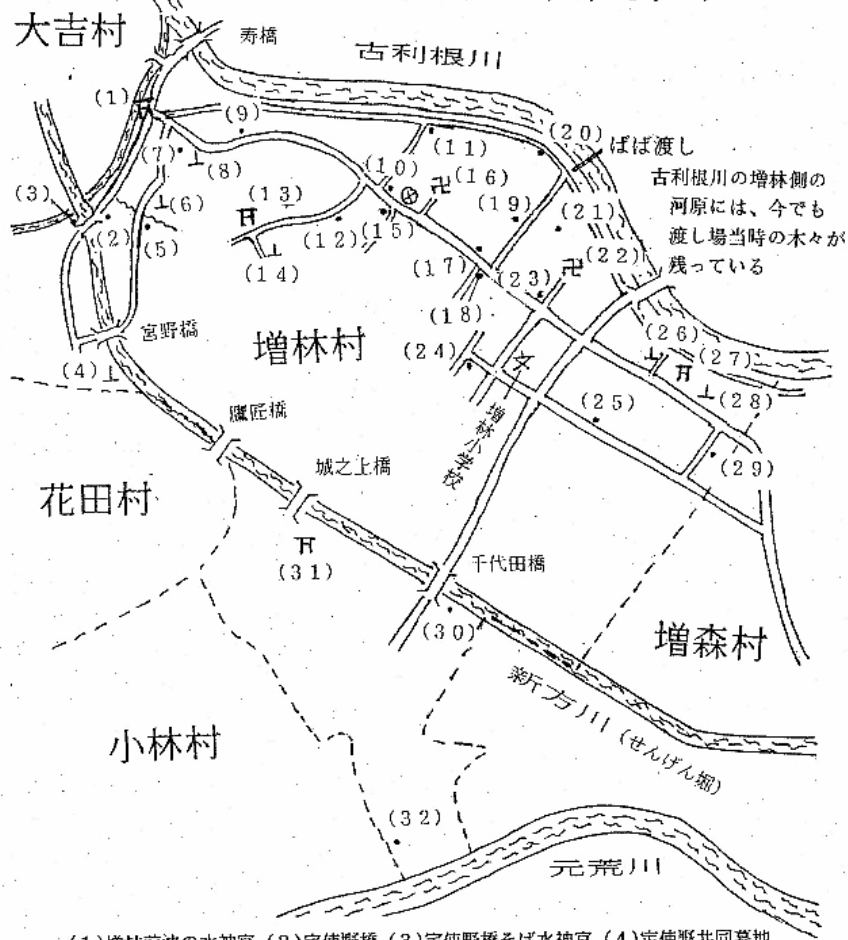
75標 道標付き水神宮文字塔



78標 道標付き文字庚申塔



# 増林の石仏案内図

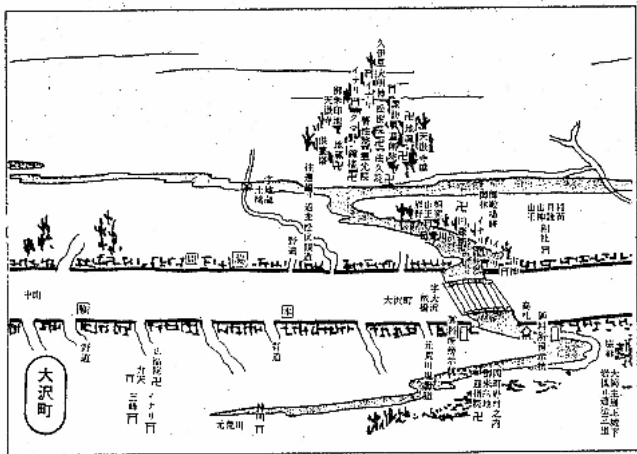
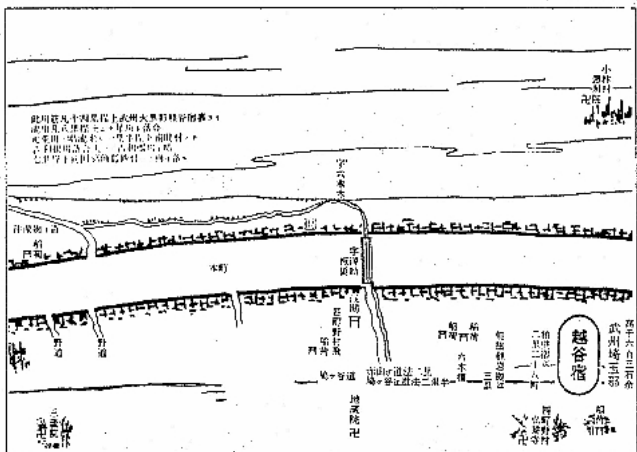


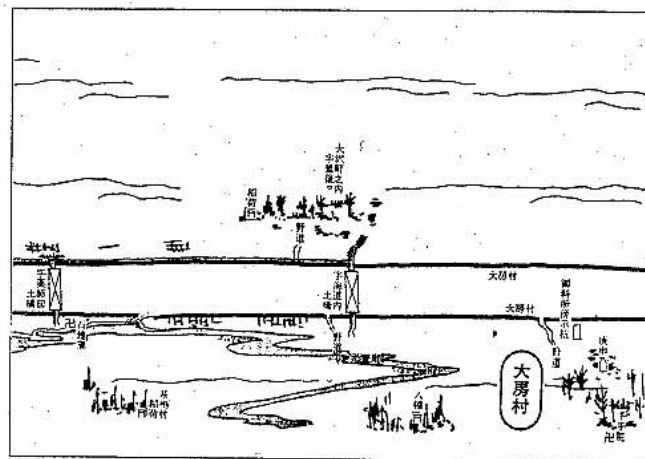
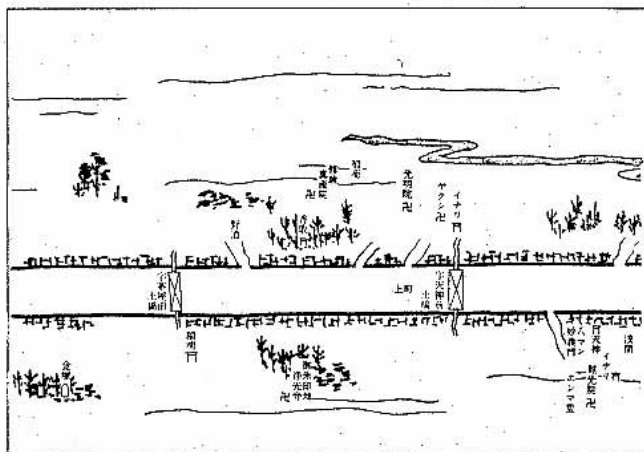
- (1) 増林前波の水神宮 (2) 定使野橋 (3) 定使野橋そば水神宮 (4) 定使野共同墓地 (5) 増林用水の平野家[増林1270]そば十字路口 (6) 清涼院墓地 (7) 平野家[増林3500]邸内 (8) 平野家個人墓地 (9) 藤掛家[増林3555]路傍 (10) 鈴木家[増林3763]路傍 (11) 古利根川八幡河岸跡地 (12) 今井家[増林3711]路傍 (13) 護郷神社(旧「浅間神社」) (14) 福寿院跡墓地 (15) 須賀家[増林3781]前 (16) 林泉寺 (17) 今井家[増林3894]路傍 (18) 須賀家[増林2-431]邸内 (19) 須賀家管理の福荷神社 (20) 林泉寺裏の土手 (21) 勝林寺の北西の「とうかん山」 (22) 勝林寺 (23) 岡安家[増林2707]路傍 (24) 岡安家[増林369]そば路傍 (25) 宮川家[増林174]路傍線 (26) 増林下組地蔵堂 (27) 増林下組香取神社 (28) 下組集会所 (29) 名倉家[増林269]邸内 (30) 千代田橋そば土手下 (31) 城ノ上福荷神社 (32) 百木家[増林5643]敷地内

## 二 日光道中分間延絵図

菅波 昌大

文化三年(一八〇六)の『日光道中分間延絵図』から越谷周辺の絵図を紹介しました。東京美術発刊の「日光道中分間延絵図 第一巻」より一部分を転載したものです。この書籍は越谷市立図書館の一階に展示されています。江戸時代の日光道中周辺の様子がよくわかります。





### 三 増林河岸の跡

鈴木 進 志

野田街道と古利根川が交差する寿橋から越谷寄りに凡そ五十メートル程の街道の北側に老大木が二本立っている。ここはかつては大吉の香取神宮の参道入口だった所である。

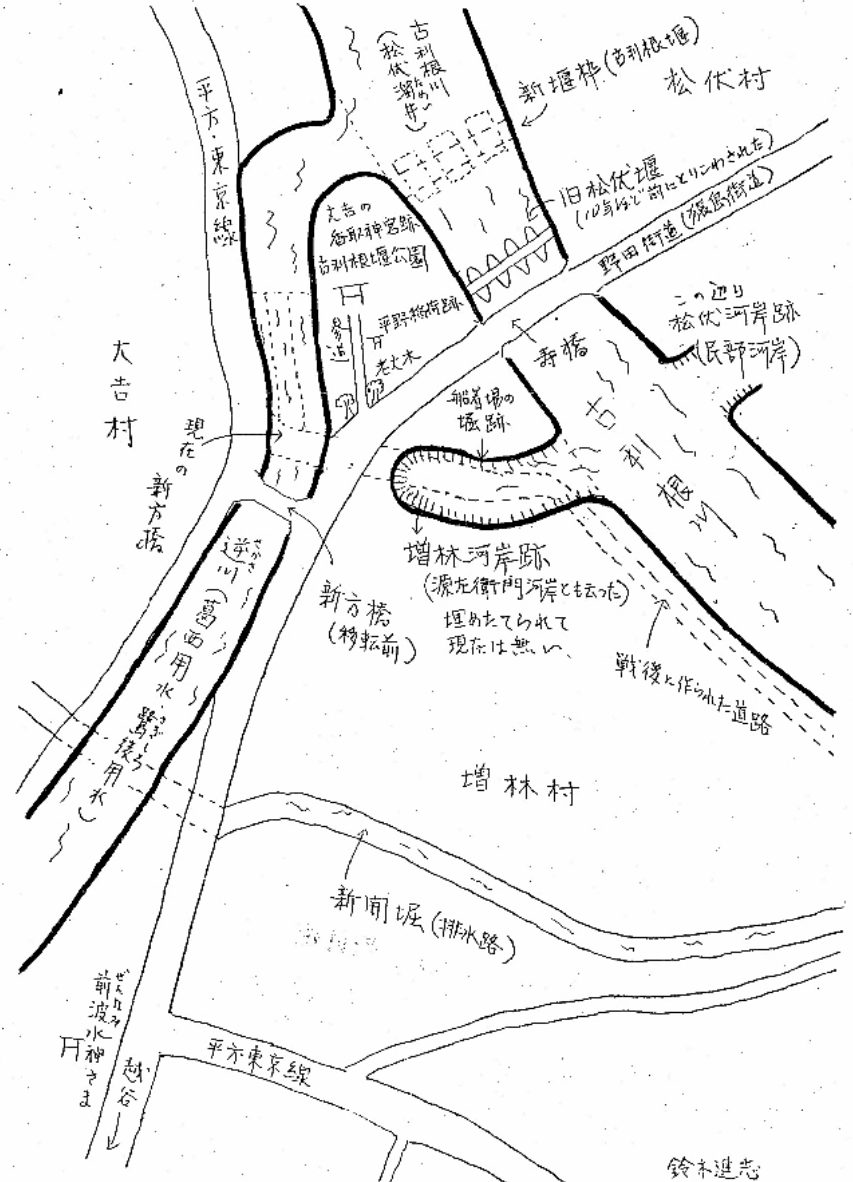
昔はこの大木前の道路を挟んで反対側に水路が見えていた。寿橋の下流凡そ五十メートル右岸にあった入江から水路が街道家並みの裏側を迂回して道路際まで入り込んでいたのである。この水路はかつての古利根川水運の増林河岸(源左衛門河岸)の船着場の跡だったという。

戦前頃の記憶であるが、当時の水路は既に街道から傾斜して埋め立てられ、昔在ったであろう荷揚げの階段等、河岸らしき跡は無くなっていた。イチジクの木が二、三本あり、ゴミも捨てられていた状況だった。その先の古利根川よりの水路は、真菰や芦が生えて沼地になっていて、所々に往時の護岸用か何かの杭が朽ち果てて僅かに頭を出していた。水路の北岸は台地で、櫻の木が何本か立ち、水路に面した岸辺は台地が崩れて太い木の根が幾重にも露出していた。水路の南東側方面は畑や田んぼで、遠く増林村の屋敷森まで見透かした。近くの松伏堰の水門が時々開いて放水されると、堰の下流が増水してこの水路まで入り込んだ。このときは水流でこの沼地は活気づき、漁師の川舟も入って繋留されていたが、普段は全く寂れた所になっていた。

「越谷市史」には、明治中頃の調査によると、古利根川の川底が既に浅くなっていたことや、粕壁からの高瀬船(途中に立ち寄る河岸場、河岸場で物資が積み込まれてきたので、地元では合船と呼ばれた)でのこの河岸場への出入りが年間三十五回、米麦三千八百二十俵、大小豆百四十八俵、などその当時の活動状況が記されている。

その後、古利根川の水運は鉄道や道路交通の発達により急速に衰退し、増林河岸も時代の変遷とともに姿を変え、現在は埋め立てられて道路や住宅地と化し、河岸場の面影は見られない。

# 増林河岸周辺図



鈴木進志

## 四 越巻村 (現、新川町) 出身の力士「荒井山大蔵」

高橋 清

幕末から明治の初めに、越巻村から相撲取りがでた古老の口伝がある。

### 荒井山大蔵

越谷市越巻出身。本名は不明。最高位幕下三十一枚目。楯山藤蔵弟子。嘉永二年(一八四九)十一月場所、大蔵という四股名で西序の口二十九枚目に出てくる。同六年二月、三段目に上がった。安政四年(一八五七)一月幕下へ進み、翌場所(十一月場所か)に荒井山大蔵と改めた。その後はバツとせず、明治元年(一八六八)十一月場所まで幕下にみえるが、その後は名が消えている(当時、幕下は相当高い地位だったようである)。

### 世直し相撲興行の功罪

明治二年、越巻村巨那衆が勸進元となり、荒井山大蔵が所属する部屋を招き興行した。功としては、相撲の流行と相まって心身の鍛練・体力増強からすればいいことであった。罪としては、  
 (一) 興行一日目から雨が続き、五日間も中止となり、力士一行の食費が莫大であった。  
 (二) 地元の青年たちが、力士の宿に出入りし、博打に引きこまれ、大損をした。  
 (三) 青年たちは、力士の相撲半纏(どてらのような半纏)を着て、肩で風を切って意気がった。  
 木戸銭収入よりも諸経費がかさみ、赤字になった。後始末は勸進元の負担となつたうえ、悪習を置き土産にして大失敗であった。荒井山大蔵のその後は不明である。

相撲場で稽古をしている力士の様子と  
それを見ている相撲半纏を着た力士の様子が  
描かれています。



荒井山 大蔵



## 五 「廣徳君行状」に見る蒲生の幕末

高橋 正澄

「廣徳君行状」とは、蒲生村十二代名主・中野廣徳(天保二年辛卯四月十八日生、明治五年壬申六月十七日没、行年四十二歳)の功績を讃えた文書。筆者不詳。

◎弘化四年丁未三月 江戸西城普請、献金により銀若干枚の賞を受く。

◎嘉永四年辛亥 日光廟修理、人馬の往来甚だ多し。君、能く徭役を監督、若干両の賞を受く。

◎嘉永六年癸丑 幕府より納金の命あり。君、力を尽くし、之を上まわる。銀二十六枚の賞を受けるも村民に分与。君、一文も取らず。

◎嘉永六年癸丑 米漕来航の後、国家多事、徭役古に十倍、村民困窮、幕府に嘆願するも省みず。

◎安政三年丙辰八月二十九日 疾風甚雨、民家潰敗三十六家、君、村内有志と謀り、金二十三両三分一朱、米十一石三斗を

募り、窮民に与える。

徭役の減少を幕府に嘆願するも幕府は省みず。

城普請、献金、銀三枚を受く。

野州の乱、輜重卒を出す。

日光廟祭事、徭役苛酷。

長州の役、高千石の地、一人の卒を出す。

◎慶応元年乙丑 納金、銀十二枚の賞を受く。同年、穀実らず。困窮者に米若干を与える。

◎慶応二年丙寅

◎元治元年甲子

◎文久三年癸亥

◎萬延元年庚申

◎安政四年丁巳

廣徳表り此

廣徳表り此時止小字為花後台... 即此高橋氏... 二男三子... 加... 時... 乃... 系... 伴... 住... 將... 乃... 軍... 比... 乃... 乃...

三... 賜... 信... 長... 惟... 長... 没... 設... 君... 二... 推... 余... 乃... 江... 若... 佐... 性... 若... 乃... 乃...

六 「迅速測図原図」と

その原図に見る弥十郎村

原田 民自

既に失われた村の面影を探る上で、地図の果たす役割は大きなものがあります。越谷市の東部に位置する弥十郎村は、今から約三百年前の江戸時代初期の正保年間に作られた絵図『正保年中改定図』が初見です。さらにその五〇年後の元禄年間の『元禄年中改定図』がありますが、これらの絵図は地名と街道が書かれてあるだけのものです。現在の地図とはさまざまな面において比較になりません。また、幕末の弘化二年(一八四五)の「弘化嘉永・相模武蔵下絵図」など多くの絵図に弥十郎村の名が見られますが、どれも江戸絵図の流れを越えることはありません。

日本が近代国家の道を歩み始めた明治の初め、国土地理院の前身である内務省地理局の参謀本部陸軍部地図課と測量課による本格的地図作りが始まりました。地図作成にあたった参謀本部は、戦略を立案し、地理や政治情勢についての情報収集を主な任務としていま

した。これが「第一軍管地方二分一迅速測図原図」(通称「迅速測図原図」)です。この原図には鮮やかな色彩が施されていて、作られた範囲は、関東平野の山間部を除いたほとんどの地域に及びました。「迅速測図原図」は、測量に携わった人が現場で線の一本一本、文字の一つ一つを書き込んで作っていった手作りのもので、畑や市街地などを色分けして示す方法は、指導的立場にあった川上冬塵(とうがい)がフランスで学んだものです。そして地図の回りには色鮮やかなスケッチが添えられています。その土地を代表する風景や建物などを西洋画の技法を用いて巧みに写し取ったものです。カメラも珍しく一般に普及していなかった明治の初めに、地図を見る人が豊かなイメージを抱けるようにと考えられた工夫です。

しかし明治十四年(一八八一)から本格的に始まったドイツに追従した軍備増強による影響で、フランス流の色彩豊かな「迅速測図原図」は世に出ることはありませんでした。そしてその「原図」を元にしてドイツ流の白黒の「第一師管地方迅速測図」(通称「迅速測図」)が作られていきました。



ワテラ・ヘズ 大沢愛子 妹サラ

## 七 大沢小学校の『青い目の人形』

水上 清

大沢小学校の校長室に三体の人形がある。二体は青い目の人形で、名はワテラ・ヘズと妹のサラ、もう一体は日本人形の沢大愛子である。

昭和の初め、米國で日本人移民の排斥運動が激しくなり、この事態を心配した親日家の宣教師シドニー・ギューリック博士は、人形による日米親善を呼びかけた。全米からの寄金で一万二七三九体の人形が購入され、一九二七年（昭和二年）、日本へ送り出された。

これらの人形のうち一七八体は埼玉県に、そのうち六体が越谷に配分された。大沢小学校に迎えられたのがワテラ・ヘズで、友だちとして大沢愛子が選ばれた。

一方、日本からも「答礼人形」として、豪華な振袖姿の日本人形五八体が米國各州に贈られた。

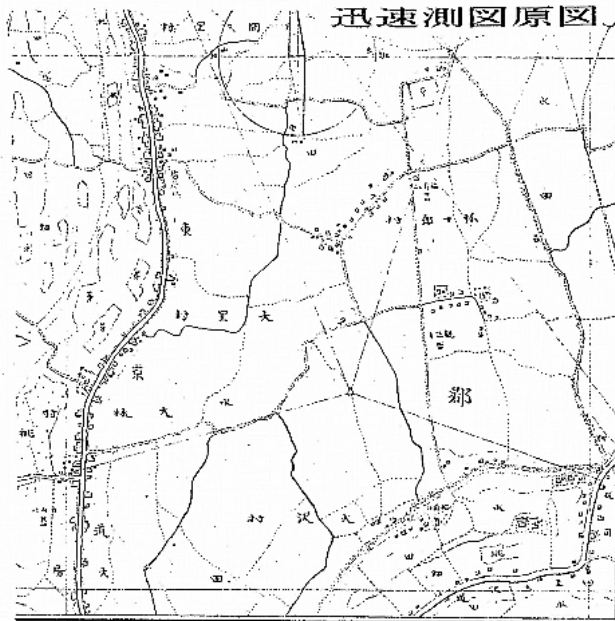
一九四一年、日米両國は太平洋戦争に突入した。多くの「青い目の人形」が「敵状人形」として壊されたり、焼かれたりした。現存する人形は全國では二七〇体あまり、埼玉県で十二体、越谷ではヘズのみである。米國への「答礼人形」は約半数の現存が確認されている。

四年前、米國の文教視察団が大沢小学校を訪れたのが奇縁で、ギューリック博士の曾孫によって「青い目の人形」の存在が判明した。早速、その家族から感謝の手紙とともに、妹サラが贈られてきた。

大沢小学校では毎年七月に「青い目の人形集會」を開き、児童による人形との英語インタビューなど英語教育を兼ね、「親善」の意義を教えている。

「迅速測図原図」に見る弥十郎村は「埼玉県武蔵國南埼玉郡平方村及恩間郷近傍」に収められていて、明治十三年十二月に作られました。そこには明治時代から振り返って百年、二百年前とほとんど変化のなかった、江戸時代の弥十郎村の姿があります。江戸時代を通じて弥十郎村に点在する家屋は三〇戸余り、そこには二〇〇人余りの人々が住んでいました。そしてすべての人が農業を営んでいました。

「迅速測図原図」を眺めていると、タイムスリップしたかのように、江戸時代の弥十郎村に自分が置かれている、不思議な気がしてきます。村に点在する茅葺きの家々、見渡す限り続く田畑。そこには視界をささぎるものは何もありません。はるか遠くに目をやると、やや北よりに日光の山々や筑波山がくつきりと見え、目を転じると富士山のすそ野までも見えたことでしょう。村に目をやると、野道にたたずむ石仏、その前を元気に走り抜ける子供たち。田んぼでは仕事に汗水を流す人も見えます。大きな家の前で数人の人の姿が見られます。何を相談しているのでしょうか。近づく秋祭りの相談なのかもしれません。



今では失われてしまった多くの大切なものが、「迅速測図原図」を見ることで浮かび上がります。

「友情の人形」(青い目の人形)に添えられた  
パスポート

「友情の人形」(青い目の人形)に添えられた手紙

1927年(昭和2年)

御嬢さん

此人形は「友情の人形」と申して御友達同志の御便で御座います。  
米國にある世界兒童親善會と申す團體を代表して、此人形は貴女や御貴家の皆様の御機嫌伺ひに日本に参ります。

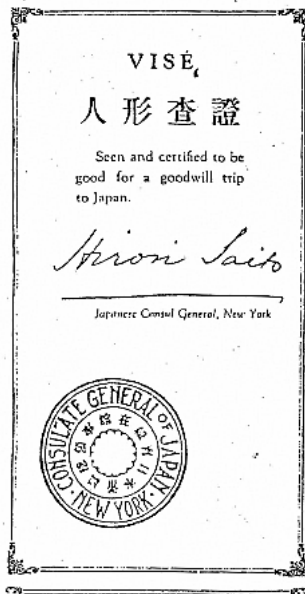
長い航海をしまして美しい御貴國に着きましたときは、眼をあげて「ママー」と申して、貴女が見せて下さる色々の珍らしいものを見、又三月の御節句にも交へて戴きたがる事です。

日本の御離祭のことをさきました幾千幾萬の米國人は、年寄も若い者も子供も、大さう御貴國の事に興味を持ちました。そして個人や團體が大よろこびで、御覽のやうな人形に思ひ／＼のさものをさせて、あつめましたのが一萬個にも達しました。

此等の人形を通して、私共はどの位に日本の子供方の御健康と御幸福と御進歩とを心よりのつて居るかと思ふことを皆様に申上度いので御座います。

いよ／＼日本に送るとなりましたとき、諸所で數十個、数百個づゝの人形の送別會が行はれ、その盛んな有様はかめにかけ度い程で御座いました。

私は永い間御貴國に居りましたので、御貴國の習慣として、他から品物を貰ひますと其の親切にむくいるために、何か御禮として差上ることゝ存じてゐます。それでですから此人形を貰ひになつたら返禮をしなければと思ひでせうが、決して／＼その御心配はなさらないで下さい。其の代りにこちらの子供の喜ぶ物を申上げますと貴女がたから御手紙を戴く事です。英語でも日本語



To Boys and Girls in Japan

This passport introduces to you *Miori Saito* a loyal and law-abiding citizen of the U. S. A., who goes to visit Japan as a Messenger of Friendship and to see the Hina Matsuri, March 3, 1927.

This Messenger represents the Boys and Girls of America and carries their greetings and a Message of Goodwill.

Please take care of *Miori Saito* while in Japan and give her any help and protection that may be needed. She will obey all the laws and customs of your country.

With all good wishes,

"UNCLE SAM"

1927.

PERSONAL DESCRIPTION

Name *Miori Saito*  
Eyes (color) *Blue*  
Hair (color) *Dark Brown*  
Nose \_\_\_\_\_  
Mouth \_\_\_\_\_  
Place of Birth *Manchester, N. H.*

"SAY IT WITH DOLLS!"

DUPLICATE TRAVEL BUREAU  
Good for one fare by rail and steamer to Tokyo, Japan, U.S.A.  
Name \_\_\_\_\_  
99 cents  
Special Extra \_\_\_\_\_  
Sidney L. Gulick  
Gen. Passenger Agt.  
No. 4869



贈呈式 (1927年、昭和2年・越谷地区)



米國から贈られた「青い目の人形」へズ

でもかまいません。日本文は謬しますが米國に深山あります。其の御手紙をもし日本の美しい  
 巻紙や繪のついた紙などに書いて下さらば尚更喜びます。又櫻や菊や風俗等の繪はがき殊に貴女  
 やあなたの學校とか御家庭の御寫真などは大歓迎されます。人形を送りました子供達は御手紙を  
 それをそれはまつて居りますことをおぼえて居て下さい。  
 萬一人形につけてあります差出人の姓名番地が途中で失くなりましたらば、人形の旅行免狀の番  
 號を附し、御手紙は私までには御出し下さい。さうするとよくしらべて正しい受取人に届けます。

どうか此人形が貴女や御姉妹様方、又御友達の間可愛がられ面白がられますやうに、さうして  
 日本と米國といつもぼんたうの仲好し御友達であるやうにと常に私は希望して居るので御座いま  
 す。

左に私の宿所姓名を英語で記入して下さいます、御きげんよう。

(Dr.) Richard L. Gulick  
 105 Edist st. N.Y.  
 New York City  
 N. Y. U.S.A.

1995年(平成7年)6月13日

大沢小学校の皆様

今から約60年前に私の祖父であるシドニー・キューリックは、12,000体の友情の人形をアメリカの子どもたちから日本におくる人形大使派遣事業を開始しました。そのお返しとして日本からもみごとな日本人形大使がおくられました。この人形大使は、アメリカと日本の子どもたちがお互により理解し、認め合い、友情を深めることを願っておくれたものでありました。大沢小学校では、当時送られたニューハンプシャー生まれのマーサ・ヒースを長い年月がたった今でも大切に保管していただいているとお聞きしました。彼女が多くの方々に守られ、愛されてこれまでの長い時代を元気で生きてこられたことを思うと感激せずにはおれません。

私の家族は、そのマーサ・ヒースの妹である新友情の人形を贈ることを決めました。この人形に託す私たちの願いは、60年前に太平洋を渡った願い、つまりアメリカ合衆国の子どもたちとの親善を願う気持ちは、変わっておりません。

その人形の名前はサラで、アメリカでは多く使われている名前です。私の妻はサラのために彼女の着替え、寝巻き、旅行用バッグなど特別に作ってやりました。そして、パスポートも持たせてやっております。どうかこれからもマーサと同様に末永くかわいがってやってください。

お元気で。サラをよろしく。

さようなら。

シドニー・キューリック3世

## 八 越谷の古いお風呂屋さん

宮川 進

私たちの街・越谷で一番古い「お風呂屋さん」はどこかご存じですか。中町の「第一御殿湯」さんです。今から約七十年ほど前の昭和六年頃の創業のようです。詳細な資料がないため、これ以上にさかのぼる可能性もあります。

昭和二十年の終戦当時は越谷に二軒だけでした。そのうちの二軒が廃業したので、戦前から続いているのは「第一御殿湯」さんだけになりました。その頃は、農家の人も燃料がないため自分の家で風呂が焚けず、遠くからお弁当をもってお風呂屋さんへ入りに行ったこともあったそうです。

一番多い時に市内に十二軒あった「お風呂屋さん」は、今では八軒しかありません。「第一御殿湯」さんも、「利益だけを考えれば二十年前にやめています。お客さんとの人間的つきあいが楽しくてやっているだけ」とおっしゃっています。

大きい浴槽にどっぷりつかって一日の疲れを洗い流す、あの庶民の楽しみ「お風呂屋さん」がいつまでも続くよう、私たちもたまには「お風呂屋さん」に行きましょう。そして、「第一御殿湯」さんはじめ、八軒のお風呂屋さん、頑張ってください。

◎現在の越谷のお風呂屋さん

第一御殿湯(中町)

第二御殿湯(越ヶ谷一丁目)

第三御殿湯(赤山二丁目)

仙石湯(北越谷)

登龍湯(登戸)

明德湯(南越谷)

蒲生温泉(蒲生本町)

大袋浴泉(袋山)

**歴史好き、好奇心いっぱいあなた！  
ぜひ、お仲間にならな！**

あなたの余暇を、ちょっと高尚で、楽しくて、そして健康にもよい  
『趣味タイム』に使ってみませんか。

**越谷市郷土研究会とは** (平成11年10月現在)

- ◎史跡めぐり・研究発表会などのイベントを毎月実施しております。  
その他に、古文書クラブの学習会も月に2回程実施しておりますが、現在満席のため募集しておりません。  
また、毎年、越谷市民まつり・越谷市民文化祭・こしがや文化芸術祭に、展示部門で参加しております。
- ◎当会は、昭和40年(1965)3月に発足しました。  
以後地道に活動し、現在は会員数が230名程度になりました。研究発表会は126回となり、史跡めぐりは270回を数えるまでになりました。  
昨年に実施しました水戸方面のバス史跡めぐりが大好評でしたので、262回は益子・笠間方面バス史跡めぐりを3月11日に実施し、盛大でした。
- ◎当会の最近の主なイベントをあげますと次のとおりです。  
平成9年の8月24日(日)  
『歴史講演会』(共催は越谷市教育委員会、後援は越谷市文化連盟)  
平成10年6月14日(日)と9月13日(日)  
『越谷・建長板碑建立750年 記念歴史講演会』(後援は越谷市教育委員会・文化連盟)  
平成11年の8月22日(日)  
『創立35周年記念講演会――越谷吾山――』(後援は越谷市教育委員会・文化連盟・俳句連盟)

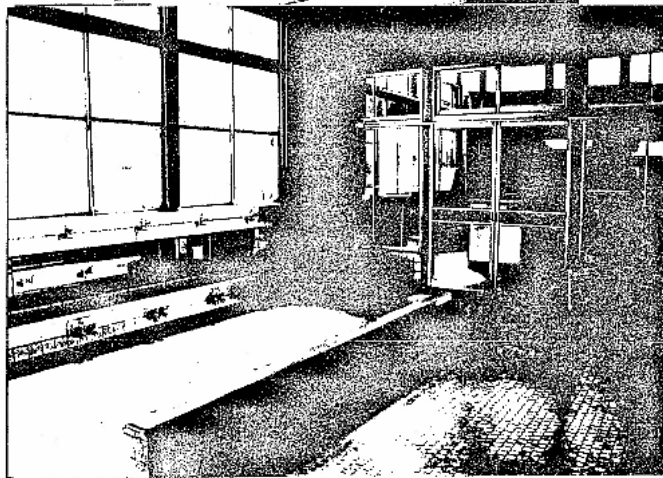
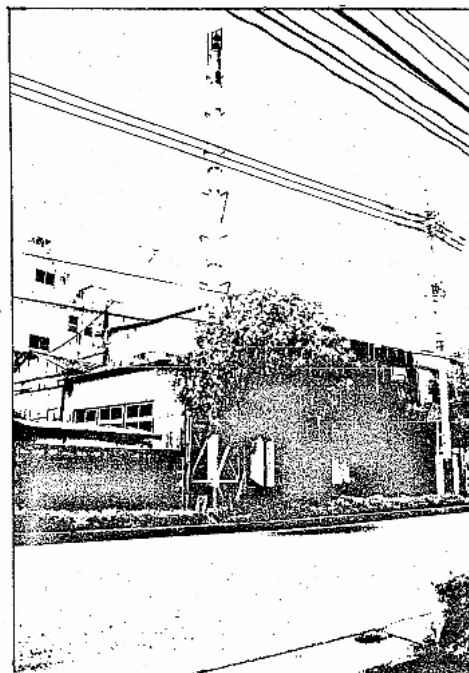
**郷土研究会にお入りになりますと**

- ◎すべてのイベントの案内が受け取れます。  
せっかくよい行事があったのに知らなかった、ということがありません。
- ◎会員だけのための特別行事に参加できます。  
郷土研究会のイベントには、「広報こしがや」に掲載していない行事にも、会員に限り、例えばバス史跡めぐり等に参加できます。

**郷土研究会にお入りになるには**

- ◎会費は、年間2,000円(会報・諸案内状・諸会議費等)です。  
どなたでも気楽に入会できます。市外の方でも歓迎致します。
- ◎申し込みは、はがきに「平成何年度より入会」とお書きのうえ、住所・氏名・年齢・電話番号を記入し、下記までお寄せ下さい。  
または、当会の各種行事の際に、郷土研究会役員までお申し込み下さい。

☎343-0806 越谷市 宮本町 3-117-8 谷岡隆夫方  
越谷市郷土研究会



第一御殿湯